# 北海道羅臼高等学校
# 総合的な探究の時間合同説明会レポート

## BRIDGE構築事業とは

変化が激しく先の見通しが立ちにくい「VUCA（ブーカ）」時代に対応し、**持続可能な社会を創造する子どもたちを社会全体で育む**ため、道教委が令和７年度から実施している事業です。

本事業では、生徒・教員・地域に向け、４つのプロジェクトに取り組んでおり、総合的な探究の時間合同説明会は、「『実社会・実生活と結び付いた課題設定』支援プロジェクト」として実施しています。本合同説明会の目的は、**地域の方に探究活動の理解を深めていただき、生徒の探究活動の支援の輪を拡充させる**こととしております。

## タイムスケジュール

羅臼高校では、羅臼町教育委員会を中心に小学校の先生方も参加していただきました。
トークセッションでは、昨年度Ezo-探究festivalに出場した班が登壇し、これまでの探究活動について熱く発表していただきました。

| 14:00 | 14:25 | 14:30 | 14:45 | 15:05 | 15:15 | 15:25 | 15:35 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 受付 | 開会式 | 総合的な探究の時間の説明 | 学校の取組紹介（トークセッション） | 質疑応答 | 総合的な探究の時間応援団リストの説明 | | 閉会式 |

## 探究活動実践例

### アップサイクルゼミ

羅臼高校では複数の探究ゼミを設定し、１年生から３年生までの異学年でグループを編制して探究活動に取り組んでいます。異学年で活動することが、探究活動を３年間で継続・発展させやすくするとともに、生徒同士の交流を通じた成長にも繋がっています。設定されているゼミの１つであるアップサイクルゼミでは、地球温暖化の影響による海洋環境の変化や水産資源の減少について学んでいます。その中で、海の恵みが十分に活用されず、多くが廃棄されている現状に着目しました。このことから、魚の骨や野菜の皮などの未利用資源に新たな価値を生み出すことを目指し、探究活動を進めています。

現在は、廃棄される魚の骨を活用することで、焼却時に発生する二酸化炭素の排出抑制に繋げるとともに、幼稚園児や小学生にも、環境問題を身近に感じてもらうことを目的として、魚の骨を原料としたクレヨンの開発に取り組んでいます。発色や匂いなどの課題はあるものの、試行錯誤を重ねながら試作品の改良を進めています。今後は、町全体の取組として発展させることを目指し、活動を継続していく予定です。

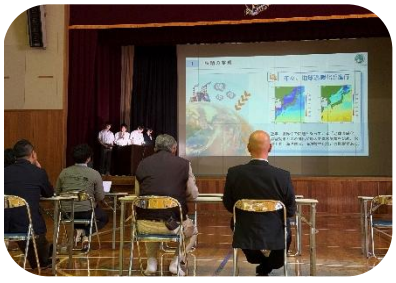
【手作りクレヨン工房で
クレヨン作りを学んでいる様子】

## 学校の取組紹介

### トークセッション

探究活動を通して学んだことについて、生徒は「伝える技術が向上しました。昨年からさまざまな場面で発表する機会が多く、表現力が高まったと感じています。また、進学など将来を考える上でも、自分の考えを伝える力は重要だと実感しました。」と話していました。

また、探究活動に伴走した教員からは「教科で学んだことを探究活動に結び付けて考える姿や、放課後に自主的に集まり、友達と相談会を行う姿から、生徒の主体性が育まれていると感じます。」とのコメントがありました。



【探究活動の発表をしている様子】

### 質疑応答

参加者から「なぜクレヨンに着目したのか」、「中学校で学んだことのうち、探究活動に生かされているものはあるか」という質問があり、これに対して生徒は次のように答えていました。

「自分たちが住んでいる羅臼町が抱える課題について、幼稚園児や小学生にも知ってもらいたいと考え、実際に手に取って遊べるクレヨンを作ろうという話になりました。また、羅臼町では『知床学』という授業があり、小学生の頃から町について学ぶ機会がありますが、その授業で得た知識が、今の探究活動の基礎となり、生かされていると感じています。」

昨年度から続けている探究活動を、今年はより深化させるために、探究活動を頑張っていきたいという意気込みを感じました。

【質疑応答をしている様子】